

【評価実施概要】

事業所番号	0172000374		
法人名	医療法人社団松島内科		
事業所名	グループホームみのり		
所在地	北海道小樽市緑1丁目16-14 (電 話) 0134-31-7333		
評価機関名	NPO法人福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月10日

【情報提供票より】（平成20年11月9日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成14年5月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤15人, 非常勤 2人, 常勤換算0.85人	

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 ～ 2	階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	32,222 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1ヶ月当たり 35,000円		

（4）利用者の概要（ 11月9日現在 ）

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85 歳	最低 71 歳	最高 95 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	松島内科・野歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古くからの街並みが残る閑静な住宅地に建てられており、居間の大きく開放的な窓からは、道行く人達や近隣の住宅が臨め、地域の生活感が身近に感じられる構造になっている。廊下も広く、各居室には洗面台とクローゼットが備え付けられ機能的に作られている。住宅地ではあるが近くには商店街があり、利便性も良く日常的に買い物・散歩に出かけている。母体医療法人は開院より地域医療の担い手で、入院病床もあり利用者・家族・職員も大きな安心感に包まれている。運営推進会議は2カ月に一度定期開催し、活発な意見交換が行われていることは大変評価できる。今後も質の高いケアの実践と共に、さらに地域住民から支援されるホームであるよう期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回評価での改善課題、外部研修の全職員の参加・終末期の取り組み・洗剤の目隠し等は全職員で検討し改善された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
重点項目②	全体会議・ミーティング等で評価の意義の確認はしているが、自己評価は幹部職員だけではなく、全職員で検討するよう期待したい。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
重点項目③	2カ月に一度定期的に行われている運営推進会議では、町内会役員4名と施設職員の総勢約10名の構成で、行事予定と報告・健康管理・防災計画・地域との交流等、地域密着型事業所としての、活発な意見交換が行われ、サービスの質の向上と事業所の運営に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
重点項目④	月に一度「みのり通信」を発行している。また家族の訪問時には近況を報告している。必要に応じ電話での報告もしている。玄関に意見箱を設置しており、来所時の会話の中から希望・要望・意見をくみ取り、家族の思いを受け入れ、ケアに反映するようにしている。
	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
重点項目④	町内会に加入している。祭り等の町内会行事の積極的参加、またホーム行事の『みのり祭り』には町内会の子供みこしが参加するなど交流している。毎日の散歩や買い物、外出時の挨拶などで、地域の人たちと自然にかかわるように努めている。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、『住み慣れた地域で普通の生活』というホーム独自の理念を実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は誰もが見やすいように一階玄関内に掲示し、全体会議やミーティングなどで常に確認し、全職員で理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。祭り等の町内会行事の積極的参加、またホーム行事の『みのり祭り』には町内会の子供みこしが参加するなど交流している。毎日の散歩や買い物、外出時の挨拶などで、地域の人たちと自然にかかわるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点は全職員で検討し改善された。自己評価・外部評価は、だれでも閲覧できるよう玄関内に掲出している。	○	自己評価は職員全員が取り組むよう、また外部評価については『改善計画シート』を活用、問題点を検討しさらなるサービスの充実に期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度定期的に行われている運営推進会議では、町内会役員4名と職員が参加し、行事予定と報告・健康管理・防災計画・地域との交流等、地域密着型事業所としての活発な意見交換が行われ、サービスの質の向上と事業所の運営に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組み状況を報告するなどし、相談・助言・指導を受け、密に連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度「みのり通信」を発行している。また、家族の訪問時には近況等を報告している。必要に応じ電話での報告もしている。	○	病気やけが等の回復状況の報告は、現状よりさらに密な報告を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。来所時の会話の中から希望・要望・意見をくみ取り、家族の思いを受け入れ、ケアに反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は最小限にとどめ、ホーム職員を固定化し、利用者との馴染みの関係を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は運営法人内の各部署から選ばれた5名の『教育委員会』が、各種企画実行している。外部研修については、全職員が順番に参加し、その内容を職員全員に周知するようにしてる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、管理者会議・総会・事例検討会・研修会等で情報交換や交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり生活が始まるのではなく事業所見学や、職員が入院中の病院に出向く等、利用者が安心・納得して徐々に馴染めるよう工夫している。また家族と相談し、昔からの生活習慣を大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々共に過ごししながら人生の先輩として、趣味等の得意分野で力を発揮してもらうための場面設定に配慮・工夫をし、利用者中心の生活をしている。常に尊敬の念を忘れずに感謝の気持ちを持つよう心掛け、一人ひとりの希望に沿った支援が出来るように、共に学び支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や会話から、希望・要望を記録し、本人本位の生活が出来るように努めており、センター方式を使用したアセスメントを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1度開催される定期的の全体会議や、週1度のフロアミーティングを通じ職員から色々な意見を聴取したり、本人・家族の意向に添う形で介護計画を作成している。また必要な意見やアイデアは、随時受け入れるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度、介護計画の見直しをしている。毎日の状態を詳細に記録し、カンファレンスで話し合い、状況に即したケアプランを作成している。また、必要に応じ随時見直しを図り実情に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の内科医院が近接しているので安心度が高い。利用者個々の状況に合わせ事業所の多機能性を活かし柔軟な対応をし、個々の満足度を高めるよう努力している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人は地域医療を担っている医療機関のため、訪問診療が週2回、訪問看護が週1回と、手厚い医療体制が出来ている。また常に詳細なモニタリングがなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、利用者・家族に説明し、情報を共有している。母体法人が一般病床と医療型療養病床がある内科医院なので、安心感がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れずに接している。利用者本人のプライドや羞恥心を大切にし、プライバシーに関わる事は周囲に配慮しながら行ってる。記録等の個人情報は事務所で厳重に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に自由に過ごしている。自己決定を重視し、出来るだけ個別性のある生活を実施している。散歩・買い物・入浴等も個々の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合わせたメニューを提供している。準備・後片付け等、個々のペースに合わせ、職員と一緒に楽しみながら行っている。食事メニューは温かみのある手書きで、食堂壁面に毎日張り出している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や要望を聞き、気持ちよくゆっくり入浴が出来るよう支援している。入浴ができない場合は、他の日に振り替えるなど臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・調理・配膳・後片付け・掃除等、利用者の経験・知識を発揮する場面を作り設定している。外出や町内会行事参加等の楽しみ事も、本人と相談し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化につながるよう日常的に買い物や公園散策に出かけている。一人ひとりのその日その時の体調に配慮し、希望に添った外出支援を心掛けてている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関、非常口など、鍵やセンサー類の使用はしていない。夜間については、防犯のため一部施錠している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導を得て防災訓練を実施している。今後は近隣住民の協力も視野にいれ、町内会と話し合いが行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、管理栄養士の指導のもと、カロリー・栄養バランス・塩分摂取に気を配り、食欲が出るよう、見た目にも美しく盛り付けしている。一人ひとりの身体・咀嚼・嚥下状況にあわせた食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁には利用者の作品や行事のモニュメントが飾られ、トイレ・廊下には手すりが効果的に配置されている。日常生活の匂いや音（食事作りや掃除）で五感を刺激し、温度・湿度に気を配り快適な居住空間を作っている。廊下の随所にはソファが置かれ一人になりたい時、ひと休みにと有効利用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台があり、機能的に作られている。個々の使い慣れた、なじみの家具・調度品・生活用品を各家庭から持参し写真・手芸作品等を飾り、安心して心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。